

第3回脱炭素市民会議 ワークショップ記録

日時：2022年10月27日（木）18:30～20:15

場所：真庭市役所本庁舎会議室

テーマ：「魅力ある真庭市 in 2050年」のための解決策を考える

■模造紙の内容：

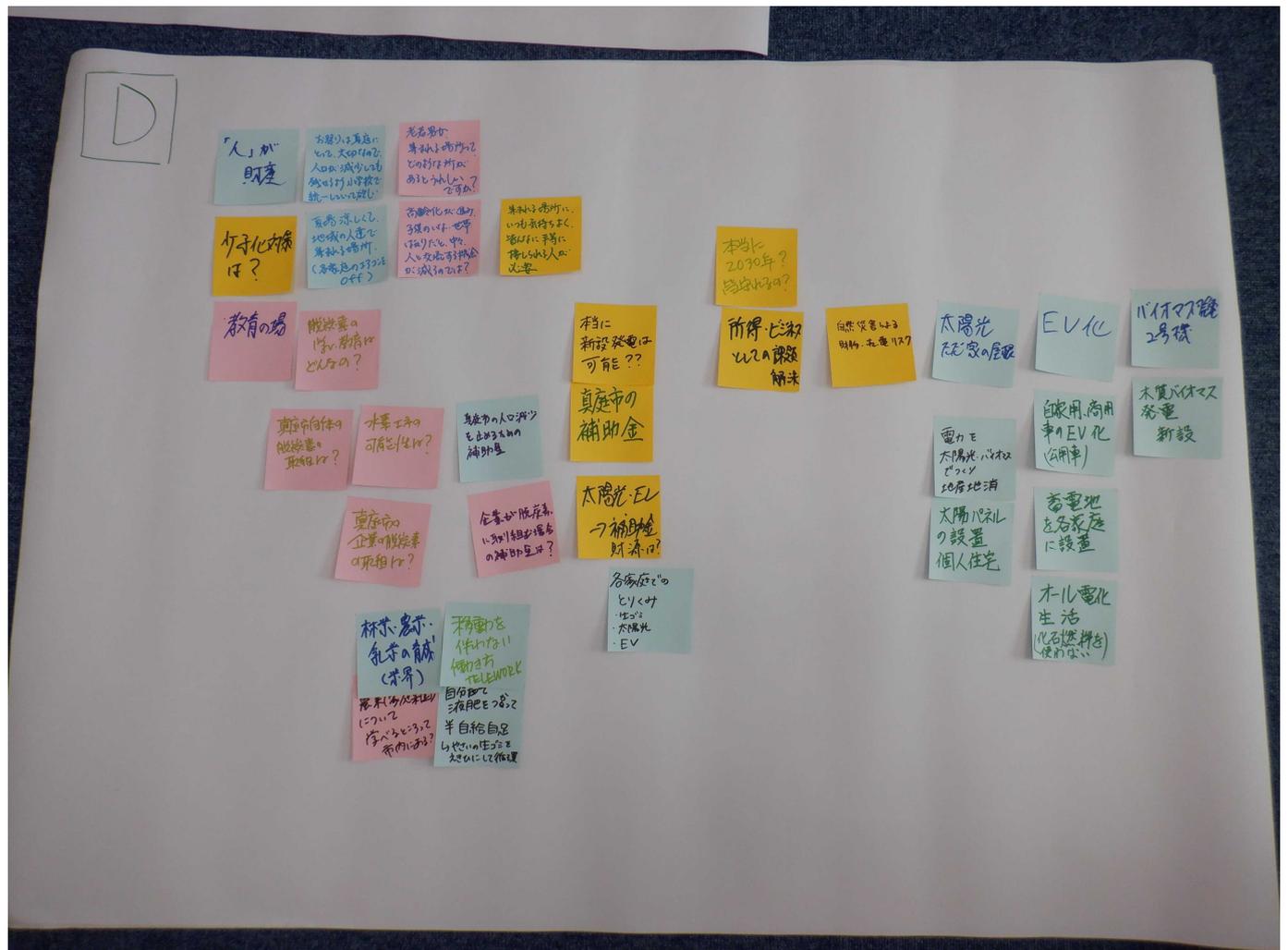
緑：必要だと思うアクション 黒字：紫の付箋（懸念・質問を必要だと思うアクションに重ねる） 黄：課題や懸念点 赤：質問

Bグループ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の市町村の成功事例の情報共有</li> <li>・若者の遊び場(何かわからないが)</li> <li>・交通手段の充実</li> <li>・真庭について考える</li> <li>・企業誘致（SDGsの取組）、税の免除等</li> <li>・小中高生への教育(脱炭素について)</li> <li>・森林吸収量をさらに増やす</li> <li>・物流の鉄道利用</li> <li>・LED照明の義務化</li> <li>・市民が社会に関心を持つ</li> <li>・循環型社会の構築</li> <li>・人に優しく思いやりのある社会を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が正しく広く一般に知らしめる</li> <li>・山を切り開いてメガソーラー設置</li> <li>・原発リスク</li> <li>・資源価格の高騰</li> <li>・規制緩和</li> <li>・人口流出・阻止対策</li> <li>・地域格差の解消</li> <li>・高齢化対策</li> <li>・民主的な市政の運営</li> <li>・社会や市政に無関心にならない</li> <li>・市民に理解してもらう</li> <li>・個人間、企業間等の利益調整</li> <li>・下川町の取組 詳細は？</li> </ul>

Cグループ



- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電新設</li> <li>・真庭モデル (全国に)</li> <li>・森林整備したらCO2吸収はどれだけ増?</li> <li>・誰もができるかどうか?</li> <li>・コストがかかる</li> <li>・EV充電設備 補助</li> <li>・バイオマス発電所 新設</li> <li>・過疎地域土地有効活用</li> <li>・創エネ・省エネの設置 目標をまず作る</li> <li>・脱炭素によって発展はなかなか想像できないので、どれくらい後退の許容</li> <li>・地域復興の話し合いのタイトルですが、脱炭素の会議ですよ</li> <li>・副次結果としての地域発展を望みすぎだと思う</li> <li>・優先順位は何か?</li> <li>・子ども向けの環境教育 遊びながら学べる場所</li> <li>・電気子育てプラン</li> <li>・高齢化 (人口減少)</li> <li>・人手不足</li> <li>・人手不足・労働力不足</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発信力強化</li> <li>・地元の良さアピール</li> <li>・観光地の磨き上げ</li> <li>・エコサイクルの構築</li> <li>・コト・モノ消費</li> <li>・アグリビジネスの推進</li> <li>・創業支援</li> <li>・全建物の屋根に太陽光パネル(南部から順に)</li> <li>・EVへの転換促進(補助金・インフラ整備)</li> <li>・集住化+ (選べる) オフグリットの住宅技術</li> <li>・中心地にバイオマス+集合住宅</li> <li>・移住・定住 住みやすい街づくり</li> <li>・活力あるコミュニケーション作り</li> <li>・建て替えと改修 排出エネルギーの相殺点は?</li> <li>・人口減少後、公共事業としてどの程度予算が割けるか</li> <li>・ZEHにも補助制度 初期コストを許容できる人 (少)</li> <li>・ランニングコスト 20年で元をとれるが、20年で亡くなる人が多い</li> <li>・そんな簡単に達成できる?</li> <li>・お金が解決してくれる?</li> </ul> |
|---|--|



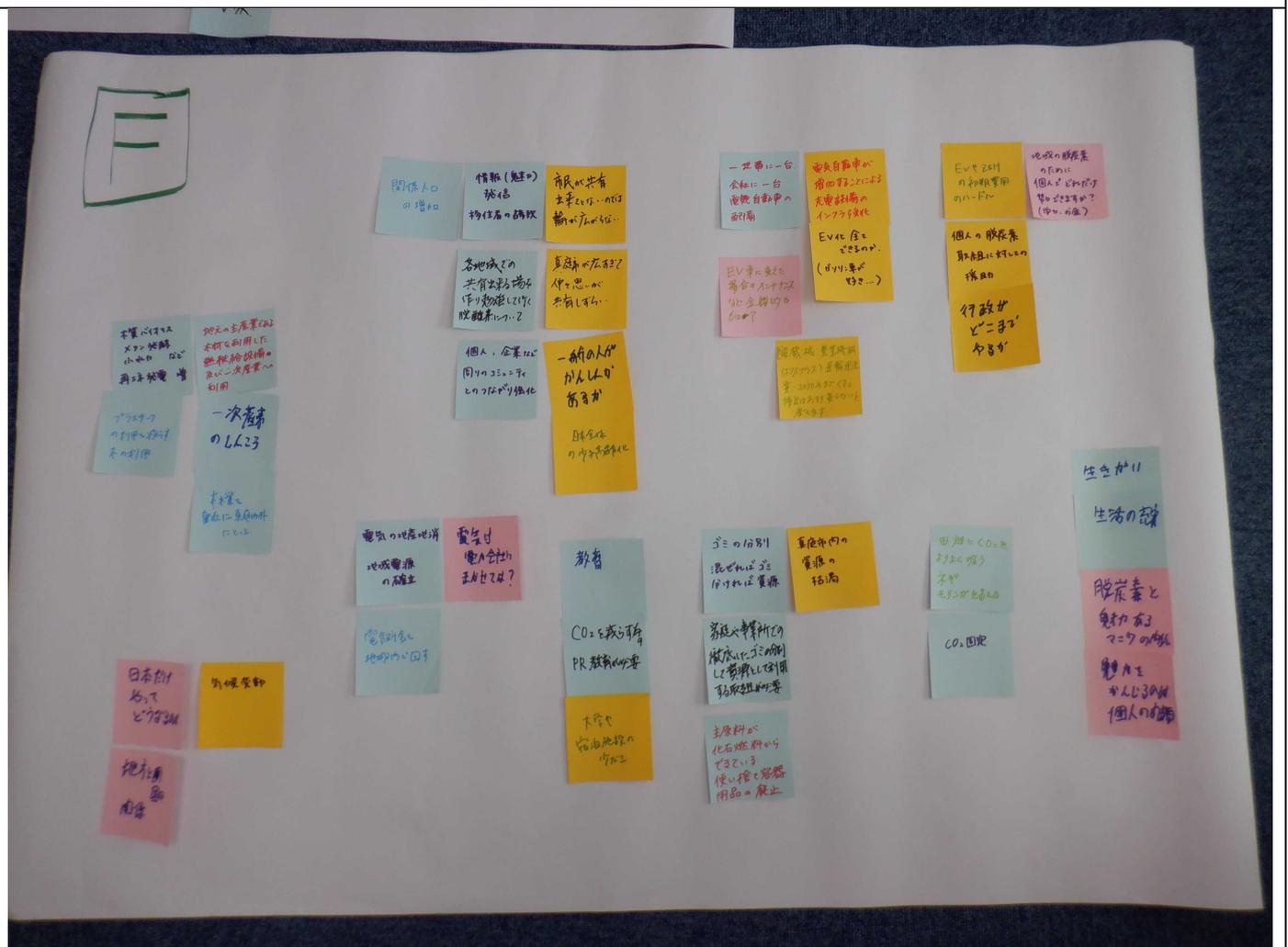
・「人」が財産

- ・お祭りは真庭にとって大切なので、人口が減少しても残せるよう小学校で統一して行って欲しい
- ・夏場涼しくて地域の人縦で集まれる場所(各家庭のエアコンをOFF)
- ・少子化対策は？
- ・集まれる場所にいつも気持ちよくみんなに平等に接しられる人が必要
- ・老若男女が集まれる場所ってどのようなところがあるとうれしいですか？
- ・高齢化が進み、子どものいない世帯ばかりだと、なかなか人と交流する機会が減るのでは？
- ・教育の場 ・脱炭素の学び教育はどんなの？
- ・真庭市自体の脱炭素の取り組みは？
- ・水素エネの可能性は？
- ・真庭市の企業の脱炭素の取り組みは？
- ・企業が脱炭素に取り組む場合の補助金は？
- ・真庭市の人口減少を止めるための補助金

・本当に新設発電は可能？？

- ・真庭市の補助金 ・太陽光・LED→補助金財源は
- ・各家庭での取組 ・生ごみ・太陽光・EV
- ・林業・農業・乳業の育成(業界)
- ・移動を伴わない働き方(テレワーク)
- ・自分たちで液肥を使って半自給自足  
→やさいの生ゴミを液肥にして循環
- ・農業(家庭菜園)について学べるところが市内にある？
- ・本当に2050年？皆守れるの？
- ・所得・ビジネスとしての課題解決
- ・自然災害による財物・売電リスク
- ・太陽光 ただ家の屋根
- ・EV化 ・自家用・商用車のEV化(公用車)
- ・バイオマス発電 2号機/新設
- ・電力を太陽光・バイオマスでつくり地産地消
- ・太陽パネルの設置 個人住宅
- ・蓄電池を各家庭に設置
- ・オール電化生活(化石燃料を使わない)

Fグループ



- ・木質バイオマス、メタン発酵、小水力など
- ・再エネ発電増
- ・地元の主産業である木材を利用した熱供給設備及び一次産業への利用
- ・プラスチックの利用を減らす 木の利用
- ・一次産業の振興
- ・林業で身近に 裏庭内外にとって
- ・日本だけやっぺどうなるのか? ・地方と国の関係
- ・気候変動
- ・電気の地産地消 地域の電源の確立
- ・電気料金を地域内で回す
- ・電気は電気会社まかせでは?
- ・関係人口の増加
- ・情報(魅力)発信 移住者の誘致
- ・各地域での共有できる場を作り勉強していく
- ・個人・企業など周りのコミュニティとのつながり強化
- ・市民が共有できてないのでは輪が広がらない
- ・真庭が広すぎて、なかなか思いが共有しづらい
- ・一般の人が関心があるか ・日本全体の少子高齢化
- ・CO2を減らすためのPR教育が必要
- ・大学や宿泊施設の少なさ
- ・一世帯に一台、会社に一台電気自動車の配備
- ・EV車に変えた場合のメンテナンスなど金額的なもの?
- ・電気自走者が増加することによる充電設備のインフラ強化
- ・EV化全てをできるのか(ガソリン車が好き...)
- ・建設機械・農業機械(エクスプレス) 運輸運送業・2050年までCO2排出はあましまわらないと考えます
- ・EVやZEHの初期費用のハードル
- ・個人の脱炭素取組に対しての援助 ・行政がどこまでやるか
- ・地域の脱炭素のために 個人でどれだけ努力できますか?(労力・お金)
- ・ゴミの分別 混ぜればゴミ分ければ資源
- ・家庭やや事業所での徹底したごみの分別をして資源として利用する取組が必要
- ・主原料が化石燃料からできている 使い捨て容器・用品の廃止
- ・田畑にCO2をよりよく吸うネギ, モリンガを苗える
- ・CO2固定
- ・生きがい ・生活の充実
- ・脱炭素と魅力ある真庭の関係
- ・魅力を感じるの個人の問題